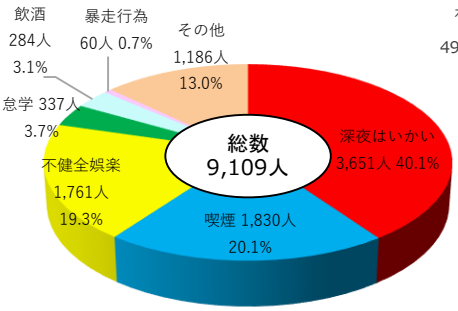
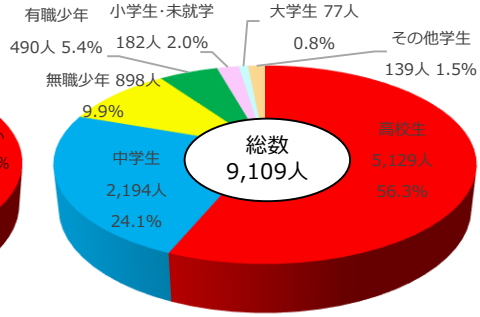
不良行為少年の補導状況

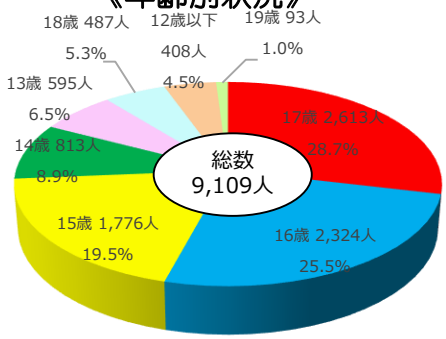
《行為別状況》



《学職別状況》



《年齢別状況》



◆ 喫煙と深夜はいかいで全体の約6割

令和6年中に不良行為で補導された少年は、9,109人（前年比-538人）であり、行為別では、「深夜はいかい」、「喫煙」で全体の約6割を占めています。

◆ 高校生と中学生で全体の約8割

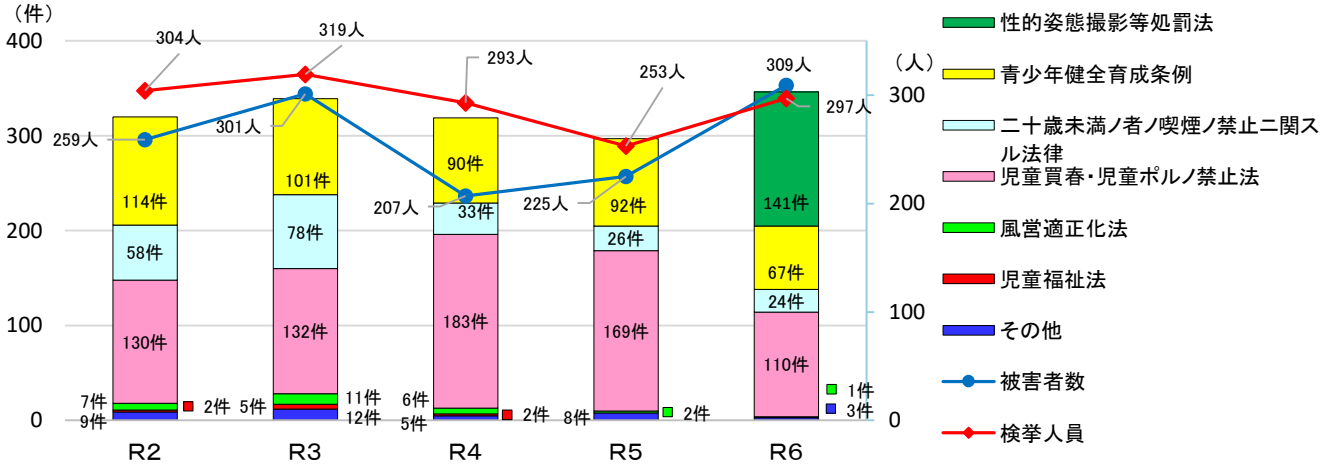
学職別では、高校生が5,129人（同-199人）と最も多く、中学生は2,194人（同+233人）となり、高校生と中学生で全体の約8割を占めています。

◆ 15歳～17歳で全体の約7割

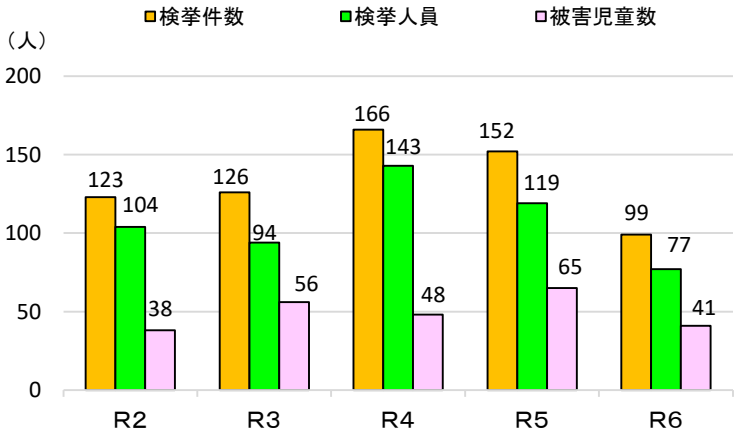
年齢別では、17歳が2,613人（同-268人）と最も多く、次いで16歳が2,324人（同-135人）となっており、15歳から17歳の年齢層で全体の約7割を占めています。

少年の福祉を害する犯罪の検挙及び被害状況

《福祉犯検挙状況及び被害児童数の推移》 ※令和6年の統計から福祉犯に「性的姿態撮影等処罰法」、「面会要求罪」が追加。



《児童ポルノ事犯検挙状況及び被害児童数の推移》



◆ 福祉犯検挙件数及び被害児童数は共に高水準で推移

・令和6年中の福祉犯検挙件数は346件であり、高水準で推移しています。

・福祉犯検挙件数のうち、性的姿態撮影等処罰法が141件、児童買春・児童ポルノ禁止法が110件（前年比-59件）、青少年健全育成条例が67件（同-25件）、二十歳未満ノ者ノ喫煙ノ禁止ニ関スル法律が24件（同-2件）となっています。

・児童ポルノ事犯の検挙件数は、99件（同-53件）となっており、その被害児童数は41人（同-24人）となっています。